

JSABs  
Japan Society of Applied Business Studies

日本ビジネス実務学会

会報 No.60

2014年4月10日発行

発行/日本ビジネス実務学会広報委員会

事務局/〒158-8630 東京都世田谷区等々力6-39-15 自由が丘産能短期大学内 TEL/FAX03-6809-7131(直通)

URL: <http://www.b-jitsumu.com> / e-mail: [business.jitumu@gmail.com](mailto:business.jitumu@gmail.com)

## ビジネス実務研究の社会的な意味

池内 健治(自由が丘産能短期大学)

ビジネス実務の現場の変化は激しく、実状の多様性も増しているようです。本学会の研究者や教育関係者は実務の現場を把握しにくくなっているのではないのでしょうか。社会経済的な揺らぎや科学技術の変革があつという間に世界中に広がり、私たちの現場も影響を強く受けています。このような混迷の環境にあるからこそ、ビジネス実務研究の重要性が増しているのではないのでしょうか。また、研究成果を一人ひとりの実務者の能力開発につなげるが必要になっていきます。



本学会は実務の現場を研究の対象としており、研究成果を実務現場の変革と実務者の能力開発に活かしていくことを目的としています。変化の激しい時こそ、研究に対する社会的ニーズが高まり、それに応える責務が増しているのではないのでしょうか。昨年の全国大会から、理事会や常任理事会(総務企画委員会)で本学会の研究領域の再確認と継続的發展をめざした規程の整備について議論を重ねてきました。その議論を踏まえて、次年度は学会全体にその議論の輪を広げ、次のステップに備えたいと考えます。

この原稿を作成している3月初旬、3.11東日本大震災から3年間という時間が過ぎようとしています。すべての社会生活の基盤がひっくり返るような不安と動揺を経験したにもかかわらず、1000日という時間が経過した現在、記憶が過去のものになろうとしています。ところが、世の中は着実に変化し、福島原子力発電所の危機的な状況は何も解決していません。取り組むべき課題をしっかりと受け止めて、問題を掘り下げ、解決に向けた努力が必要だと考えます。

ビジネス実務学会の研究においても、ビジネス実務の現場の重要な課題を正面から受け止めて、その課題に粘り強く取り組んでいきたいと考えます。ITをはじめとする科学技術の革新、国際環境における企業競争力の変化、市場環境の変化などの影響を受け、一人ひとりの実務の現場は着実に変わりつつあります。

自ら働く場を獲得し、その場で成長をして、充実した社会生活・職業生活を営むためには、ビジネス実務能力の開発が欠かせません。ビジネス実務研究の社会的な意味は、ここにあると考えます。2014年度、会長としての任期の最後の一年を迎えます。社会からその必要性を認められる学会として継続的できる基礎を築く年としていきたいと考えます。

### Contents

会長挨拶	1
委員会活動・第33回(2014年度)総会・全国大会のご案内	2
2013年度ブロック研究会活動報告	
北海道、関東・東北ブロック	3
中部、近畿ブロック	4
中国・四国、九州・沖縄ブロック	5
発表一覧	6
2013・2014年度ブロック運営委員	8
新入会員	8

# 委員会活動

## ■総務・企画委員会

委員長 坪井明彦(高崎経済大学)

日本ビジネス実務学会の研究領域について委員会として検討した。現在の研究領域およびそのサブ領域が示されてから、約10年が経過している。今年度は、サブ領域のマイナー・チェンジにとどめているが、今後、全国大会のシンポジウムなどを通じて、学会の研究領域についても確認・検討していきたい。また、現在、学会の倫理綱領やプライバシー・ポリシーの作成、既存の規程類の整備を行っている。承認後、速やかにホームページ等で公開していく予定である。

また、2014年度の全国大会は札幌国際大学において開催されるが、2015年度は福岡工業大学短期大学部において、「ビジネス実務教育の新たな展開」という統一テーマで開催予定である。

## ■編集委員会

委員長 米本倉基(藤田保健衛生大学)

2013年度は、例年通り、ビジネス実務論集第32号を発行した。14件の申し込みに対して、投稿11件、各論文に対して査読者2名の審査と12月の編集委員会における審議を経て、理論・調査研究3編(全て研究ノート)、教育開発研究4編の計7編が審議を通過し(修正を条件とするもの、再審査を必要とするものを含む)、掲載辞退があったため、最終的に理論・調査研究3編(全て研究ノート)、教育開発研究3編の計6編の掲載となった。

2014年度(第33号)も7月に投稿申し込みを開始し(8月上旬締め切り)、原稿の締め切りは10月になる予定である。投稿をお考えの先生方は、準備をよろしく願いすると同時に、多くの方からの投稿をお待ちしている。

## ■広報委員会

委員長 椿 明美(札幌国際大学短期大学部)

本年度は、会報No.59、No.60を発行した。また、ホームページでは、著書紹介コーナーにおいて、学会員の執筆著書を紹介しているが、徐々に紹介数が増加しており、会員の活発な研究成果を発信できている。どうぞ一度学会ホームページをご覧ください。また、ご自身の新刊著書等がありましたら学会事務局までご連絡をお願いしたい。

今後、学会からの会報や全国大会等のご案内を、郵送からメールに移行する予定である。メールアドレスをまだ登録いただいていない方には、是非ご協力をお願いしたい。

## 第33回(2014年度)総会・全国大会のご案内

すでにご案内のとおり、第33回全国大会を下記のとおり開催します。皆様のご参加をお待ちしています。詳細は全国大会通信または学会ホームページをご覧ください。

1. テーマ:「ビジネス実務教育と就業力育成Ⅱ」
2. 日時:2014年6月14日(土)・15日(日)
3. 会場:札幌国際大学(札幌市清田区清田4条1丁目4-1)
4. 開催ブロック:北海道ブロック

# ブロック研究会報告

## 北海道ブロック

### ■北海道ブロック研究会報告

リーダー 武井 昭也 (札幌国際大学)

#### (1) ブロック研究会の動向

ブロック会員数は、ほぼ30名前後で推移している。6ブロック中最小規模ではあるが、研究会活動は意欲的に取り組む会員が多い。運営は、監事を含む12名の運営委員が役割分担しスムーズに行っており、今年度入会者の若いエネルギーがさらに活動を活発にしてくれるものと期待している。

#### (2) 2013年度の活動

今年度のブロック研究会は2013年11月9日(土)に北海商科大学で開催した。出席者は11名で、研究発表は4件であった。発表後の活発な質疑応答では研究継続のための多くの示唆があり、研究発表終了後にはフリー・ディスカッションの場を設けて意見交換を行った。後半は本年6月札幌開催第33回全国大会についても確認や意見交換を行い、会場を移しての懇親会でも情報交換を行った。

#### (3) 第10回学生プレゼンテーションコンテスト

ブロック研究会主催の学生プレゼンコンテストは、2013年12月7日(土)に北海商科大学で開催した。今回は3大学6名と3名の留学生の発表があり、応援や見学の学生も多く、節目の大会にふさわしい充実した内容となった。インターンシップやボランティア活動を題材にした体験に基づく課題解決のプロセスが披露され聴衆を惹きつけた。審査中は発表者や応援学生同士の交流の場となっている。審査結果は以下のとおりである。

■最優秀賞：札幌国際大学観光学部観光ビジネス学科3年 立崎正恵  
「インターンシップと企業社会における社会人基礎力の見直しについて」

■優秀賞：札幌大谷大学社会学部地域社会学科2年 細川瑛代  
「地域活動を通して見えてきたもの」

#### ■審査員特別奨励賞：

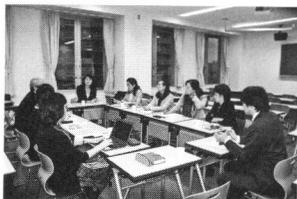
北海道武蔵女子短期大学教養学科2年 山本彩可  
「夢実現～DREAMS COME TRUE～」

#### ■優秀賞「留学生の部」：

北海商科大学留学生(中国山東大学威海校) 劉 冬  
「中国で野球を普及させるには」

#### (4) 2012年度「ブロック研究会活動報告書」の発行

例年通り「ブロック研究会活動報告書(要旨集)」を年度末に郵送した。



## 関東・東北ブロック

### ■関東・東北ブロック研究会報告

リーダー 高橋真知子 (常磐短期大学)

#### (1) 2013年度ブロック研究会の動向

ブロックの会員数は、首都圏における短大の急激な減少もあって、現在135名前後で推移している。しかし、研究活動では、新規の共同研究が2件申請されたり、新分野の研究発表がなされたり、社会の変化に呼応するかのような、活発な活動の気運が感じられる。運営は、新人4名に経験者1名の参加により新風が吹き込まれ、13名の運営委員が役割分担しながら進めている。

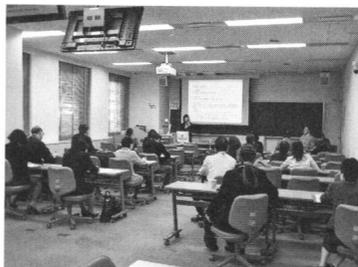
また、前期より掲げている「運営の簡素化と効率化」をさらに推進するために、「ブロックメール」を2013年末に制度化し運用を開始した。今後さらに、会員間の素早い情報共有・経費節減・活動負担の軽減化に努めていく。

#### (2) 2013年度の研究会活動

2014年2月9日(日)、統一テーマに「ビジネス実務教育と就業力育成Ⅱ」を掲げ、自由が丘産能短期大学で開催した。前日関東は45年ぶりの大雪で、各地の交通網がマヒしたため開催が危ぶまれ、参加申込者が40名のところ実際は33名(学生2名)となったが、参加者の熱意で予定どおり開始できた。総会後、基調講演(井上由美子：アクサ生命保険(株)元人事部長/英国国立ウェールズ大学院准教授「大学で作り出す人材とビジネス現場で求める人材の大きな乖離」)、共同研究1件、研究発表4件、実践事例報告2件と参加者全員の意見交換を目的としたバズセッションなど盛沢山のプログラムが展開された。研究会終了後に会場を移して懇親会が開かれ、情報交換をしながら和やかなうちに散会した。

#### (3) 2013年度ブロック会報の発行

2014年3月末を目途に、「ブロック研究会活動報告」を発行配布する。



## 中部ブロック

### ■中部ブロック研究会活動報告

リーダー 米本 倉基 (藤田保健衛生大学)

平成25年1月11日・12日の2日間、金沢市ITビジネスプラザ武蔵において、今年度ブロック研究会が開催され、今回も、会員等30名、プレゼンテーション・コンテスト出場学生8組9名、そして金沢学院短期大学の学生スタッフを加えた大変賑わいのある研究会となった。今回の目玉企画として、基調講演として初年次教育でも有名な金沢工業大学の藤本元啓教授をお招きできたこと。そして2日目の朝に、中部ブロックのメンバーによるモーニング・ワークショップと題して「サービス実務入門の授業への導入スキル勉強会」を開催した。

研究発表は、加納輝尚氏(富山短期大学)による「学生の汎用能力の成長と学科ディプロマポリシーとの関係からみたインターンシップのあり方についての一提言」、岡野大輔氏(金城大学)による「ビジネス実務“法”教育の試み」、佐久間潔氏(修文大学短期大学部)による「ワーク中心のインターンシップがもたらすスキル」、奥村実樹氏(金沢星稜大学)による「課題解決型プロジェクト教育の現状と課題-経営学教育の視点から-」、中原亜紀美氏(金城大学短期大学部)他2名による「学生主体における秘書技能検定1級面接試験の指導体制-学生指導者に与える効果-」、河合晋氏(岡崎女子短期大学)による「ゼミ活動におけるPBLの課題について」、黒木由美氏(名古屋経営短期大学)による「医療機関における経営者の秘書に望まれる資質について-実態調査より-」であった。

また、同時に開催された学生プレゼン大会では、最優秀賞に善哉なつきさん(清泉女学院短期大学1年)、優秀賞に松井菜摘さん(金城大学短期大学部1年)と犬嶋愛海さん(富山短期大学1年)、奨励賞に田中茅佳さん(金城大学短期大学部1年)、中村麻友さん(富山短期大学1年)、筒井星良さん(名古屋経営短期大学1年)、市川千遥さん(名古屋経営短期大学1年)がそれぞれ受賞した。

3年ぶりの北陸地区でのブロック研究会とあって、初日の夜には、近江町市場で懇親会が開催され、総勢20名が前菜に加賀レンコンのきんぴらに始まる北陸の海の幸・山の幸のコース料理に舌鼓を打ち、お座敷の掘りこたつスタイルも相まって、まさに和気藹藹とした時を過ごした。



## 近畿ブロック

### ■近畿ブロック研究会活動報告

リーダー 坂本 理郎 (大手前大学)

近畿ブロックでは、新しい運営委員の下で初めて、なおかつ第50回という記念すべき研究会を2014年2月23日(日)に開催した。今回の研究会では、総会、研究発表(二部制)、学生によるプレゼンテーション大会、研修会という式次第であった。なお、参加者は37名であった。

総会では、まず故福井有先生(前会長)のご冥福をお祈りし、参加者全員で黙祷をささげた。その後、2013年度運営委員の紹介を行い、リーダーから前年度の活動報告と会計報告が行われた。さらに今年度および新年度の事業計画と予算案が示され、承認された。

その後の研究発表は、全6件と活発な研究会となった。とくに今回は、川端先生や西村先生、竹内先生といった新入会の若手の研究発表と、中堅、ベテランの報告がそろい踏みとなると同時に、キャリア教育から企業内人材育成に関するものまでテーマも多様となり、まさにビジネス実務学会の今後を示唆するような内容であった。

さらに今回で7回目となる学生プレゼンテーション大会を開催し、4組7名の学生が発表した。7名はそれぞれの持ち味を存分に発揮して優れたプレゼンテーションを行い、いずれも甲乙つけがたい内容であった。そのため運営委員による審議はスムーズではなかったが、前年度にしたがって、発表内容、声量、表情、パワーポイントの出来映えなどを評価して、優秀賞(1名)と奨励賞(3組6名)を授与した。

研修会は、「大学教育におけるワークショップのデザイン」というテーマで、東京大学・大学総合教育研究センター・特任研究員館野泰一先生を講師にお迎えして実施した。

本研修は、ワークショップの手法をどのように大学教育に活かすことができるかについて検討することを目的として企画・実施された。具体的には、①ワークショップとは何か、②ワークショップの具体的事例、③ワークショップの限界とデザインのポイント、について館野先生から話題提供が行われ、参加者全員がワークショップ形式でのディスカッションを行った。参加者は、それぞれの現場でワークショップを活用するためのヒントを授かり、有益な研修会となった。

研究会後は、懇親会(参加者29名)を行い研究発表内容についての意見交換や普段の教育・研究の情報交換などを盛んに行いながら、有意義なときを過ごし、今後の意欲をそれぞれに充たしての散会となった。



## 中国・四国ブロック

### ■中国・四国ブロック研究会活動報告

リーダー 篠原 収 (広島女学院大学)

第30回ブロック研究会は、2013年8月31日(土)・9月1日(日)の2日間にわたり、松山東雲短期大学において、18名の会員等と学生プレゼンテーションの発表者11名を加えた29名の参加を得て開催した。招待講演『『企業』と『大学』が協同し学びに関わることで、学生の主体性は引き出されたか? ~Future Skills Projectの成果を踏まえて~』(株ベネッセコーポレーション大学事業部研究開発課チームリーダー平山恭子氏)、定例総会、第8回学生プレゼンテーション大会、会員による研究発表6件という内容で実施された。数多くの会員のご参加ならびに貴重なご発表をいただいた。今回も、発表件数が例年に比べ少なかったように思った。共同研究助成も募集中である。

また、8回目を迎えることになった学生プレゼンテーション大会は、3グループ・3個人、計11名の学生の参加申し込みがあった。熱心なご指導もあり、年々プレゼンテーションの内容・方法ともに質が高くなってきており、すばらしい発表であった。PBLなど授業成果の発表をするグループも定着し始めたように思う。学生プレゼンテーション大会には、参加学生の友人たちも応援に駆けつけていた。

第32回全国大会では、各ブロック代表による「ジェネリックスキル育成の実践事例報告」があり、本ブロックからは比治山大学短期大学部の粟屋会員にお願いした。



## 九州・沖縄ブロック

### ■九州・沖縄ブロック研究会活動報告

リーダー 大重 康雄 (鹿児島女子短期大学)

平成25年度からはブロックリーダーが交替し運営委員もメンバー交代があり、新しい体制がスタートした。九州・沖縄ブロック研究会は2015年(平成27年)に全国大会が控えおり、ブロック内の意思疎通・連携体制をこれまで以上に高めていくことが重要である。

本年度は、10月5日(第53回)と2月15日(第54回)にブロック研究会を開催し、同日運営委員会も開催した。全国大会開催校については、10月のブロック研究会で福岡工業大学短期大学部に決定し、2月のブロック研究会は下見を兼ね同校で開催したが十分な環境・設備であることが確認できた。研究発表状況ではビジネス実務教育に於けるプロジェクト型授業研究やPBL型授業研究及びそれらの評価方法開発など、非常に先進的な研究発表が多かった。参加型・PBL型の授業に対し学生はどの様に感じているのだろうか、学生自身は自分のキャリアデザインをどのような体験を基に形作っていくのだろうか。2月の研究会では「セミナー企画」として実際に現役学生を研究会に呼び、「私のキャリアデザイン体験」をテーマにプレゼン発表をしてもらった。参加学生は、北九州市立大学(外国語学部)、筑紫女学園大学(人間福祉学科)、鹿児島女子短期大学(教養学科)から各1名、すでに内定済みの卒業間近な学生たちである。内定に至るプロセスで何がその企業・業種への意思決定に役立ったかを、一人10分程度で発表してもらおう試みであった。今年の全国大会のテーマにもなっている「就業力」について、学生発表を通じてビジネス実務教育の立場で意見交換するセミナーである。

今回の学生プレゼンは、これまでの発表会とは全く内容が違っていた。各学生の発表後、フロアとの質疑に入るのだが、今回は北九州市立大学の学生からの発案でパネルディスカッション形式に切り替わったのである。3人の学生がパネラーに早変わりし、質疑が進行していった。元々モチベーションの高い学生たちではあったが、参加型・PBL型授業のプラス効果なのだろうか。当日学生達の行動で感じたのは、単に授業の良し悪しではなく、学生の「主体性」の強さであると感じた。参加型・PBL型授業はそれら主体性を引き出し評価することができる授業であろう。「セミナー企画」はコンセプト作りや事前準備にかなりの労力を要するが、研究会全体に与えるインパクトは大きい。日頃の研究成果を第三者的に見直す機会となって欲しいと思う。26年度は、全国大会の準備年度でありブロック内のモチベーション向上に全力をあげたい。

# ブロック研究会発表一覧

(テーマ、氏名(所属)、研究領域)

## ■北海道ブロック研究会

1. 「コラージュからみる ～自分らしさの表現と他人からみたイメージの違いについて」  
南 聡子(北海道医療専門学校)  
[1]ビジネス実務の教育開発研究 2)授業方法の研究
2. 「就業力における主体性の本質と求められているもの」  
和田佳子(札幌大谷大学)、加藤由紀子(北海商科大学)  
[2]ビジネス実務の調査・研究 3)個人とチームの実務能力の開発

3. 「インターンシップによる成長の評価 ～学生・企業それぞれの視点から」  
小林 純(札幌国際大学短期大学部)  
[1]ビジネス実務の教育開発研究 2)授業方法の研究
4. 「ジェネリック・スキル教育の意義と課題ー日本語表現力育成」  
武井昭也(札幌国際大学)  
[1]ビジネス実務の教育開発研究 2)授業方法の研究

## ■関東・東北ブロック研究会

### ■助成研究

1. 「中小企業のインターンシップⅡ」  
古閑博美(嘉悦大学)、牛山佳菜代(目白大学)、北川宣子(カリタス女子短期大学)、佐藤美津子(多摩大学)、鈴木 恵(横浜創英大学)、本多和子(横浜創英大学)  
研究領域: [2]ビジネス実務の調査・研究 2)時代を切り拓くビジネス実務

研究領域: [2]ビジネス実務の調査・研究 2)時代を切り拓くビジネス実務

### ■共同研究

5. 「21世紀を迎え税理士業界の今後」  
嶋田 誠((株)麹町経営)、高橋克矢(カルベディエム商事(株))  
研究領域: [2]ビジネス実務の調査・研究 2)時代を切り拓くビジネス実務

### ■個人研究

2. 「短期大学におけるサービス接遇教育の効果測定」  
藤原由美(自由が丘産能短期大学)  
研究領域: [1]ビジネス実務の教育開発研究 2)授業方法の研究
3. 「大学生企業研修モデルー短期間で成果を挙げるー」  
石井典子(一般財団法人キャリア教育振興協会)  
研究領域: [1]ビジネス実務の教育開発研究 2)授業方法の研究
4. 「教育投資の経済性分析ー大学・短大進学は生涯賃金を増加させるかー」  
山口憲二(新島学園短期大学)

### ■実践事例報告

6. 「短期大学における課題解決型学習『地域課題実践』の現状と課題ー短期大学と地域自治体との連携によるパソコン教室への取り組みー」  
池田るり子(自由が丘産能短期大学)  
研究領域: [1]ビジネス実務の教育開発研究 2)授業方法の研究
7. 「チームビルディングのためのワークショップ演習ーマシュマロチャレンジ・地図作成ゲームー」  
畠田幸恵(神奈川歯科大学短期大学部)  
研究領域: [1]ビジネス実務の教育開発研究 2)授業方法の研究

## ■中部ブロック研究会

1. 「自己特性に対する内省活動による進路選択への影響について」  
尾関智恵(東海学院大学)、松田侑子(弘前大学)、白木由香(東海学院大学)、茶座伊都子(東海学院大学)、田和真希(東海学院大学)  
[1]ビジネス実務の教育開発研究 2)授業方法の研究
2. 「ビジネス実務“法”教育の試み」  
岡野大輔(金城大学)  
[1]ビジネス実務の教育開発研究 2)授業方法の研究
3. 「学生の汎用能力の成長と学科ディプロマポリシーとの関係からみたインターンシップのあり方についての一提言」  
加納輝尚(富山短期大学)  
[1]ビジネス実務の教育開発研究 2)授業方法の研究
4. 「ワーク中心のインターンシップがもたらすスキル」  
佐久間 潔(修文大学短期大学部)  
[1]ビジネス実務の教育開発研究 2)授業方法の研究

5. 「課題解決型プロジェクト教育の現状と課題ー経営学教育の視点からー」  
奥村実樹(金沢星稜大学)  
[1]ビジネス実務の教育開発研究 2)授業方法の研究
6. 「秘書技能検定面接試験における学生主体の指導体制導入による効果ー学生指導者を対象とした調査からー」  
中原亜紀美(金城大学短期大学部)、田村久美(川崎医療福祉大学)、中村健壽(川崎医療福祉大学)  
[1]ビジネス実務の教育開発研究 2)授業方法の研究
7. 「ゼミ活動におけるPBLの課題について」  
河合 晋(岡崎女子短期大学)  
[1]ビジネス実務の教育開発研究 2)授業方法の研究
8. 「医療機関における経営者の秘書に望まれる資質についてー実態調査よりー」  
黒木由美(名古屋経営短期大学)  
[2]ビジネス実務の調査・研究 1)ビジネス環境と実務

## ■近畿ブロック研究会

1. 「キャリア初期の成長に有効な人間関係に関する研究」  
(2012・2013年度近畿ブロック研究助成最終報告)  
坂本理郎(大手前大学)、西尾久美子(京都女子大学)  
[2]ビジネス実務調査・研究 3)個人とチームの実務能力の開発
2. 「今治造船業における新人研修事業のための組織間連携」  
川端勇樹(中京大学)、西尾久美子(京都女子大学)  
[2]ビジネス実務調査・研究 2)時代を切り開くビジネス実務
3. 「持続可能な社会システム構築による新しいビジネス実務の創造(第4報) —時代を切り拓くビジネス実務構築のための次期社会体制の概念把握—」  
林 雄太郎(社団法人全国日本學士會)  
[2]ビジネス実務調査・研究 2)時代を切り開くビジネス実務
4. 「経営理念に対して差異化する意味の調整を図るマネジメントの探究 —資生堂社・美容部門の中国事業における事例から—」  
西村知晃(神戸大学大学院)  
[2]ビジネス実務調査・研究 3)個人とチームの実務能力の開発
5. 「女子短期大学生の職業的不安の変化」  
足塚智志(大手前短期大学)  
[1]ビジネス実務の教育開発研究 1)ビジネス実務プログラム開発と教材開発プログラム
6. 「ゼミナールにおける全履修生を対象とした学外者との『ゼミでやってきたこと』に関する面談の効果」  
竹内一真(大手前大学)  
[1]ビジネス実務の教育開発研究 1)ビジネス実務プログラム開発と教材開発プログラム

## ■中国・四国ブロック研究会

1. 「企業からの英語力要請と教育現場の現状」  
堀口誠信(徳島文理大学短期大学部)  
[1]ビジネス実務の教育開発研究 1)ビジネス実務プログラム開発と教材開発プログラム
2. 「学生の常識力育成で『やる気』を育む」  
金岡敬子(四天王寺大学)、岡崎 聡(京都聖母学院短期大学)  
[1]ビジネス実務の教育開発研究 1)ビジネス実務プログラム開発と教材開発プログラム
3. 「キャリアデザインのためのパーソナルファイナンス教育についての考察 —卒業前教育の視点から—」  
加渡いづみ(四国大学短期大学部)  
[1]ビジネス実務の教育開発研究 2)授業方法の研究
4. 「課題解決型学習を用いたビジネス実務教育の事例発表」  
佃 昌道(高松大学)、関 由佳利(高松短期大学)  
[1]ビジネス実務の教育開発研究 2)授業方法の研究
5. 「情報公開と秘密の保護についての一考察(その5) —モラルの中心を基にした社会的ジレンマの解決策について—」  
曾根康仁(関西学院大学)  
[2]ビジネス実務の調査・研究 2)時代を切り拓くビジネス実務
6. 「CoHRD事業 東京PBL合宿プログラムの効果と課題」  
桐木陽子(松山東雲短期大学)  
[2]ビジネス実務の調査・研究 2)時代を切り拓くビジネス実務

## ■九州・沖縄ブロック研究会

1. 「中国ビジネス法制に関する一考察(その2)」  
北原康司(釜山女子大学)  
研究領域: [2]ビジネス実務の調査・研究 1)ビジネス環境と実務
2. 「日本航空のナレッジマネジメントに関する研究」  
井上奈美子(筑紫女学園大学)  
研究領域: [2]ビジネス実務の調査・研究 2)時代を切り拓くビジネス実務
3. 「ビジネス実務教育にワークライフバランスの実現のための教育の導入の必要性—ジェンダーの視点から—」  
花崎正子(近畿大学九州短期大学・都市生活研究会)  
共同研究者: 黒岩英子(都市生活研究会) 徳永康子(都市生活研究会)  
研究領域: [2]ビジネス実務の調査・研究 2)時代を切り拓くビジネス実務
4. 「ARCSモデルに基づく授業改善の成果とその要因分析—1年生向け授業のジェネリックスキルの成長値を比較して—」  
見館好隆(北九州市立大学)  
研究領域: [1]ビジネス実務の教育開発研究 2)授業方法の研究
5. 「プロジェクト学習を通じた学生の主体的な学び—[ビジネスプランニング]プロジェクトを中心に—」  
橋本恵子(福岡工業大学短期大学部)  
共同研究者: 石橋慶一(福岡工業大学短期大学部)  
研究領域: [1]ビジネス実務の教育開発研究 1)ビジネス実務プログラム開発と教材開発プログラム
6. 「韓国ビジネス法制の一考察(その3)」  
北原康司(釜山女子大学)  
研究領域: [2]ビジネス実務の調査・研究 1)ビジネス環境と実務
7. 「秘書業務の現代的特徴と今後の課題」  
徳永彩子(九州共立大学)  
研究領域: [2]ビジネス実務の調査・研究 1)ビジネス環境と実務
8. 「『ビジネス・プランニング』プロジェクトの取り組み」  
橋本恵子(福岡工業大学短期大学部)  
共同研究者: 石橋慶一(福岡工業大学短期大学部)  
研究領域: [1]ビジネス実務の教育開発研究 2)授業方法の研究
9. 「ビジネス実務教育にワークライフバランスの実現のための教育の必要性」  
花崎正子(近畿大学九州短期大学・日本B.P.W.北九州クラブ)  
研究領域: [2]ビジネス実務の調査・研究 2)時代を切り拓くビジネス実務
10. 「社会人適応能力診断検査の開発に関する予備的研究」  
森部昌広(九州共立大学)  
共同研究者: 本多美美子(鹿屋体育大学)  
研究領域: [1]ビジネス実務の教育開発研究 1)ビジネス実務プログラム開発と教材開発プログラム

# □ 2013・2014年度ブロック運営委員 //////////////////////////////////////

## ■北海道ブロック運営委員

- ◎武井 昭也(札幌国際大学)
- 加藤由紀子(北海商科大学)
- 椿 明美(札幌国際大学短期大学部)
- 和田 佳子(札幌大谷大学)
- 官尾 昌子(北海道武蔵女子短期大学)
- 佐々木邦子(北翔大学)
- 長谷川 修(札幌国際大学)
- 高橋 秀幸(北海道武蔵女子短期大学)
- 和田 早代(札幌国際大学)
- 千葉 里美(札幌国際大学)
- 小林 純(札幌国際大学短期大学部)
- 沢田 隆(北海道文教大学)

## ■関東・東北ブロック運営委員

- ◎高橋真知子(常磐短期大学)
- 齋藤 勇二(自由が丘産能短期大学)
- 飯塚 順一(湘北短期大学)
- 藤原 由美(自由が丘産能短期大学)
- 石井 典子(一般財団法人キャリア教育振興協会)
- 岡田小夜子(大妻女子大学短期大学部)
- 北川 宣子(カリタス女子短期大学)
- 小松 由美(福島学院大学短期大学部)
- 齋藤 裕美(多摩大学)

- 関 憲治(自由が丘産能短期大学)
- 西村この実(常磐短期大学)
- 畠田 幸恵(神奈川歯科大学湘南短期大学部)
- 山口 憲二(新島学園短期大学)

## ■中部ブロック運営委員

- ◎米本 倉基(藤田保健衛生大学)
- 國田千恵子(金沢学院短期大学)
- 西川三恵子(名古屋経営短期大学)
- 河合 晋(岡崎女子短期大学)
- 手嶋 慎介(愛知東邦大学)
- 齊藤 和幸(佐久大学短期大学部)
- 中村 則子(名古屋学芸大学短期大学部)

## ■近畿ブロック運営委員

- ◎坂本 理郎(大手前大学)
- 中川 伸子(神戸女子短期大学)
- 福井 愛美(大手前大学)
- 野坂 純子(大手前短期大学)
- 加藤 晴美(プール学院大学短期大学部)
- 樋口 勝一(海星女子学院大学)
- 足塚 智志(大手前短期大学)
- 西尾久美子(京都女子大学)
- 兒島 尚子(大阪樟蔭女子大学)

- 仁平 章子(四條畷学園短期大学)

## ■中国・四国ブロック運営委員

- ◎篠原 収(広島女学院大学)
- 桐木 陽子(松山東雲短期大学)
- 渡辺 裕一(川崎医療福祉大学)
- 粟屋 仁美(比治山大学短期大学部)
- 曾根 康仁(関西学院大学)
- 宇根 治(広島女学院大学)

## ■九州・沖縄ブロック運営委員

- ◎大重 康雄(鹿児島女子短期大学)
- 井上奈美子(筑紫女学院大学)
- 山本 浩貴(東筑紫短期大学)
- 大橋 健治(筑紫女学院大学)
- 白川美智子(福岡女子短期大学)
- 有馬 恵子(鹿児島女子短期大学)
- 花崎 正子(近畿大学九州短期大学)
- 見館 好隆(北九州市立大学)
- 橋本 恵子(福岡工業大学短期大学部)
- 木原すみ子(九州龍谷大学)

◎印…ブロックリーダー

○印…サブリーダー

# 新入会員

## ◎正会員

会員名	勤務先	ブロック	会員名	勤務先	ブロック
倉増 久子	株式会社エイ・ケイ・ケイ	北海道	正田 浩三	大手前大学	近畿
田澤 早苗	北海道文化放送株式会社	北海道	千古利恵子	京都文教短期大学	近畿
氏家 秀太	フォロインプレンディ株式会社	関東・東北	竹内 一真	大手前大学	近畿
佐野 達	自由が丘産能短期大学	関東・東北	田和 真希	東海学院大学	近畿
沼田翔二郎	高崎経済大学地域政策研究科博士前期課程(特定非営利活動法人DNA)	関東・東北	仁平 直	神戸国際大学附属高等学校	近畿
			福井 就	大手前学園	近畿
樋掛 英里	文化学園大学	関東・東北	大友 達也	安田女子短期大学	中国・四国
信川 景子	金沢星稜女子短期大学部	中部	佐々木公之	中国短期大学	中国・四国
岡崎 聡	京都聖母学院短期大学	近畿	藤井 雄三	高松短期大学	中国・四国
川島 正章	大手前大学	近畿	光岡 延幸	福岡女子短期大学	九州・沖縄

## ◎学生会員

会員名	所属先	ブロック	会員名	所属先	ブロック
嶋田 誠	千葉商科大学大学院(株式会社 麹町経営)	関東・東北	西村 知晃	神戸大学大学院(大手前大学)	近畿
佐藤 愛	新潟県立大学	中部	田中 恵子	川崎医療福祉大学大学院(Mission Will ミッションウィル)	九州・沖縄

# 事務局からのお知らせ

### ■転居届提出のお願い

当学会からの発行物は、郵便局ならびにヤマト運輸のメール便を利用しています。転居の際に郵便局へ転居届を出されても、ヤマト運輸の場合は、転居先不明で学会事務局へ戻ってきます。

発行物をスムーズにお手元にお届けするためにも、転居・所属先変更の際には、学会事務局までお知らせ下さい。よろしく願いいたします。

### ■全国大会2号通信について

第33回全国大会2号通信をお送りしています。もしお手元に届いていない場合は、学会事務局までお知らせ下さい。詳細については、学会ホームページに掲載しています。

### ■新年度会費納入のお願い

5月に会費納入のお願いをお送りいたします。当学会は、皆様からの会費によって運営されています。期日までに納入いただきますようお願いいたします。